①　大切なものは何ですか　《小学校低学年～高学年》

「りんこちゃんの8月1日ー とやま大くうしゅうー」から考える

「りんこちゃんの８月１日」の作者　村上凛子（りんこ）さんは、2000年３月に金沢市の小立野小学校を最後に教職を退職されたわたしたちの先輩です。４歳の時に富山で空襲をうけ、退職後も富山大空襲の体験を語り継ぐ活動を熱心に行っています。

このページには、作品の中に込められている村上凛子さん自身の思いを載せてあります。授業をすすめるにあたって、子どもたちから出された感想と関係づけながら活用していただければ幸いです。

戦争体験の継承というのは戦争を過去のこととしてとらえてしまいがちなのですが、「りんこちゃんの８月１日」を昔話に終わらせず、生きた教材として扱うために大切なことは何でしょうか。

一人ひとりの命は奇跡みたいなものです。おじいちゃんやおばあちゃんが戦争の時代を生きのびることができたから今の自分があるのです。どの時代にも戦争があり、自分の命につながる人が生きのびてくれていたからこそ、今の自分がいるのです。「今は平和だなあ、平和な世の中に生まれてよかったな」と思っている人も、さかのぼっていくと誰かが生きのびてくれたことによって自分の命があるわけです。そして、生きたくても生きられなかった人たちの命が自分の命の背景にはあるのです。わたしたちはていねいにこの命を生きていかなければならないと思います。昔から何度も繰り返された戦時下をくぐり抜け、命がずっとつながって今日に至ったという点でその一つひとつの命は奇跡みたいなものなのですね。決して昔話ではないのです。

富山大空襲のとき、石川県からも夜空が赤く燃え上がっているようすが見えたと聞いたことがあります。富山大空襲の規模はどのくらいだったのでしょうか。

富山大空襲では、一般市民の住宅が標的とされました。木造の家が燃えやすいようにナパーム弾や焼夷弾が使用され、富山市の99.5%が焼けました。８月１日はアメリカ航空軍の創立記念日で、最大限の爆撃をして成果を上げ、創立記念日を盛り上げようという動きがありました。「爆弾を落とす」というアメリカからの空襲予告のビラがまかれていましたが、その夜はB29が富山を通り過ぎていったため市民は「今夜は大丈夫だろう」と思っていました。

しかし、そのB29は実は長岡へ向かったものであり（その日は長岡でも空襲がありました）、一度安心した富山市民は寝込みを襲われたのです。死者は3000人を超えました。地方都市の空襲としては大規模のものでした。

そして、かおだけ だして すいちゅうメガネを かけると、そらを にらみました。
ばくだんが おちてきたら、よけるためです。
りんこちゃんは、ふとんの なかで ふるえていました。

とつぜん、目の まえが あかるくなりました。
ふとんの まわりの あおくさに 火が ついたので、おかあさんが ふとんを めくったのです。

とやまの まちが まっかに もえています。
ほのおは たかく まいあがり、そらまで もえているみたいです。
あつい 火かぜが ふきつけています。

「わあーっ」
りんこちゃんは、なきだしました。

すこし はなれた ところに いくと、おかあさんは また りんこちゃんに ふとんを かぶせました。
ふとんの なかで、りんこちゃんは おかあさんに しがみついていました。
さっき みた まちの ようすが、目から はなれません。
ばくだんの おちる おと、はれつする おとが、いつまでも つづいていました。

どれくらい たったのでしょう。
ようやく しずかに なりました。
りんこちゃんが ふとんから でると、あたりは もう あかるく なりはじめていました。

うばぐるまが もえています。
川の なかに にげた ひとたちが、からだを あたためています。
りんこちゃんたちは たすかりました。
おかあさんも ぶじでした。
せいこちゃんも。
けれど——

「かあちゃーん」
「とうちゃーん」
おやを さがす 子どもの こえ。
子どもを さがす おやの こえ。
目のまえの まっくろこげの 木の えだのようなものは、よくみると にんげんなのです。

「りんこ、おみず のむ?」
「かんぱん たべる?」
おかあさんに きかれても、りんこちゃんは くびを よこに ふるだけでした。
むねが いっぱいで、なにも ほしくありませんでした。

「あ、とうちゃんや」
どての みちを、おとうさんが あるいてきました。
「とうちゃーん!」
「りんこ!」
りんこちゃんは、おとうさんに とびつきました。
おとうさんは りんこちゃんを しっかり だきしめました。

くうしゅうが はじまると、おとうさんは 小杉のえきで きしゃを とめて、まっかに もえる とやまの そらを、じっと みつめていました。

そして、あさに なるのを まって、あるいて とやまに もどってきたのです。
とちゅう、母と 子の したいが あると、うちのものでは ないかと たしかめ たしかめ きたといいます。
かぞく ぜんいん ぶじで、こんな うれしい ことは ありませんでした。

おひるごろ、りんこちゃんたちは、よしづくりのしんせきの うちに むかって あるきはじめました。
あつくて やけどしそうな れんたいばしを、おとうさんに おんぶしてもらって……

とやまの くうしゅうで、三千にんちかくの ひとが なくなりました。
りんこちゃんの きんじょでも、かぞくを なくした ひとが たくさん いました。
くうしゅうを おしえてくれた おくさんも なくなりました。
りんこちゃんたちと おなじように にげた 神通川で、おちてきた ばくだんに あたったのです。

それから 五日たった 八月六日 ひろしまに、九日には ながさきに、せかいで さいしょの げんしばくだんが おとされました。
そして 八月十五日、日本は せんそうに まけたことを みとめ、ながく つづいた せんそうが、おわりました。
とやまの くうしゅうから 二しゅうかんごの ことでした。

りんこちゃんの8月1日

りんこちゃんが　四さいの　ときの　ことです。
そのころ日本は、アジアやアメリカ、ヨーロッパの
たくさんの　くにぐにと、せんそうを　していました。
せんそうが　だんだん　はげしくなった　一九四
五年。
りんこちゃんが　すんでいるとやま市にも、ばくだ
んを　つんだ　アメリカの　ひこうきがとんでくる
ように　なりました。

「りんこ、おきなさい」
おかあさんの　こえで、りんこちゃんは目を　さま
しました。
ウーウーウー
くうしゅうけいほうが　なっています。
八月一日の　よる、とけいは　十じを　まわろうと
していました。
「おみやさんに　にげるよ」
おかあさんは　いもうとの　せいこちゃんを　お
ぶっています。
きかんしだった　おとうさんは、そのよるは　かな
ざわへ　いく　しごとで　るすでした。

りんこちゃんは、ねむい　目を　こすりながら、く
つを　はきました。
ベルトの　ついた　あかい　おしゃれな　かわぐ
つです。
りんこちゃんの　だいの　おきにいりで、どこへ
いくにも　はいていました。

りんこちゃんの　いえは、神通川の　すぐそばです。
おみやさんは、川に　そって　ほんの　すこし　上
に　いった　ところに　ありました。
うばぐるまに　ふとんと　リュックサックを　つむ
と　おかあさんは　りんこちゃんを　つれて　おみやさ
んに　いそぎました。

おみやさんには、ちかくの　ひとたちが　あつまっ
て　きていました。
十一じちかくに　なって、くうしゅうけいほうの
かいじょを　しらせる　サイレンが　なりました。
「こんやは　もう　だいじょうぶだろう」
だれかが　そういって、みんな　つぎつぎに　いえ
に　もどりはじめました。

りんこちゃんは、ねむくて　しかたがありません。
「かあちゃーん、ねむたーい」
とうとう、べそを　かきました。
おかあさんも、いえに　もどることに　しました。

いえの　ちかくまで　きたときです。
うらの　しょうゆ工場の　おくさんが、いえから
とびだしてきました。
「いま　うちに　はいったら　だめや。ラジオで、ア
メリカの　ひこうきが　たくさん　とやまに　むかっ
てると　いうとるよ」
おかあさんは、おみやさんに　ひきかえすことに
しました。

おみやさんの　まえまで　きたときです。
パアーッ
あたりが　まひるよりも　あかるくなりました。

ピュウ　ピュウ……
ふえを　ふくような　おと。
ガラガラ　ドカン！
かみなりより　すごい　おと。
じめんが　びりびり　ふるえます。
くうしゅうが　はじまったのです。

「りんこ、しっかりつかまっておいで」
おかあさんは、りんこちゃんに　うばぐるまの　も
ち手をしっかり　にぎらせました。
そして、川の　どてに　そった　みちをはしりだし
ました。

りんこちゃんは　はしりました。
しっかり　うばぐるまに　つかまって、まっすぐ
まえを　みて、はしりました。
はしって　はしって、しんぞうが　ドクドク　なり
ました。

「あ！」
みぎあしの　くつが　ぬげました。
「くつが……」
りんこちゃんは、くつを　とりに　もどろうと、う
ばぐるまから　手を　はなしました。
その手を、おかあさんが　ぐいっと　つかみました。
「くつなんか　どうでもいいよ！」
ぬげた　あかい　くつは　そのまま、りんこちゃん
は　かたほう　はだしで　はしりつづけました。

しばらくいって、おかあさんは　はしるのをやめま
した。
どてに　あがると、おかあさんは　りんこちゃんに
ふとんを　かぶせました。
せいこちゃんを　おんぶしたまま、おかあさんも
ふとんの　なかに　はいりました。

大切なものは何ですか　「りんこちゃんの8月1日―とやま大くうしゅう―」から考える

授業案

1　ねらい　　戦時下のりんこちゃんの体験を通して命の大切さについて考える

2　展開例

（＊クラスの実態、子どもたちのようすに合わせて展開してください）

学　習　活　動	児童の意識や活動の流れ	支　援
1.「大切なもの」について考える 大切なものは何ですか 大切なものがうばわれたらどうしますか	・ゲーム ・ぬいぐるみ ・お母さん ・自分の命 ・家族 ・友だち ・ペット ・泣く ・おこる ・元気が出なくなる	・大切なものを想起させ、それを奪われる立場になって考えさせる
2.「りんこちゃんの8月1日」の読み聞かせを聞く		・「りんこちゃんの8月1日―とやま大くうしゅう―」を読み聞かせする
3. 感想を話し合う りんこちゃんは赤いくつを取りにいっていたらどうなっていたかな	・りんこちゃんの命が助かってよかった ・りんこちゃんの赤い靴がなくなった ・3000人の人が死んだ ・空襲を教えてくれたしょうゆ工場のおばさんも死んだ ・戦争はどうしておこるのかな ・戦争は避けられないのかな ・戦争でじいちゃんが死んでいたら、今の自分はいないんだな	・作者村上りん子さんの話とつなげられたらよい
4. まとめ あなたは人の大切なものを奪いたいですか	・大切なものを奪う戦争、たくさんの命を奪う戦争はいやだ	・戦争を起こすのは人間であるから避けることができるという考えを示す

※「りんこちゃんの8月1日―とやま大くうしゅう―」は県教組より各支部に3冊ずつ届けてあります。読み聞かせの際、ぜひ活用してください。